

教育・実務業績書（専門職大学等の教員）

平成29年11月15日

氏名 荒木 幸子

職 業 分 野	職 務 内 容 の キ ー ワ ー ド	
食生活学 応用健康医学 食品化学 獣医学 疫学・予防医学 獣医・小動物栄養学	食と栄養、機能性食品、栄養疫学、臨床栄養学 生活習慣病、加齢・老化 食品機能、分子栄養学、ニュートリゲノミックス 治療・看護 予防医学、健康管理、健康増進 獣医看護学、食と栄養、小動物栄養学、小動物臨床栄養学、食事療法、予防医学、健康管理、健康増進、代替統合医療	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
<p>1 教育方法の実践例</p> <p>①学習内容を臨床上の実践に活かす期間を考慮した長期間にわたる教育プログラム（6ヶ月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔地からでも参加がしやすいように、スクーリング（講演・座学）と自主学習を織り交ぜた学習方法 ・教育における e-mail やインターネット教育サイトの活用 ・視覚的にも解りやすいスライド教材を用いた講義 ・ビデオ教材を活用した授業・自習方法 ・理解を深め実践につなげるための自習課題・レポートの活用 ・自習教材・自習教材のインターネットサイトでの配布と提 	<p>平成27年11月～ 平成29年9月</p>	<p>比較統合医療学会主催の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』平成27年11月より6ヶ月間 ・『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』平成29年2月より6ヶ月間 ・『統合医療栄養学セミナー（応用編）』平成29年3月より6ヶ月間 <p>以上3回にわたって、獣医師向けに各6ヶ月の教育プログラムを企画・実施した。</p> <p>受講者は全国各地（北は北海道、南は九州）から集まった獣医師たちであったため、6ヶ月の学習期間の間には、4回のパワーポイント・スライドを用いたスクーリング（講演・座学）を東京にて行ったことに加えて、自習月にはインターネット教育サイトを活用して、自習教材と自習課題を配信し、提出してもらうなど、自主学習も取り入れて継続的かつ自発的な学習も可能な教育内容とした。</p> <p>スクーリングで使用したスライドは授業の内容を視覚的・直感的に理解しやすいように、図や表などを多用した。また、米国の食事指導を実践している獣医師による教育的ビデオを紹介し、日本字幕を講師自らが翻訳して追加したビデオ教材を作成し、授業と自習で使用した。米国の獣医師が経験を交えて、また自ら実演している様子をビデオ教材により視覚的に体験できたことで、学習への意欲がより高まったと考える。</p> <p>スクーリングがない月でも、学習を継続できるように、自習課題とレポートを取り入れた。自習課題は授業内容の理解を深め、臨床上実践するのに役立つ内容となるように工夫した。参加者からも、実際に自分で考えて演習することで、新しい</p>

<p>出</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネット教育サイトならびに email を活用した質問受付と回答 ネット上の掲示板を活用した質問とシェアリング <ul style="list-style-type: none"> メールリストやインターネットサイトを活用した連絡システム <ul style="list-style-type: none"> 参加者間での学びを促進するためにプレゼンテーション・ディスカッションを導入 <ul style="list-style-type: none"> 学習プログラムが終了した後でも、講師・受講者間での質問やディスカッションの場としてウェブ上のグループを作成し、継続学習ができるようなシステムを作成 		<p>発見があり、理解が深まったとの好ましい報告があった。さらに、遠隔地からの課題提出にも支障がないように、そしてタイムラグが生じないように、インターネット教育サイト経由でのリアルタイムの課題提出方法とし、返答もインターネット経由でタイムリーに行うことが可能となった。</p> <p>授業内容について、また授業で学んだ事を臨床で実践してもらう上で寄せられる質問には、インターネットサイトや email 経由で随時受け付けた。実際に多数の質問が講師によせられており、受講者は次の授業まで待つことなく、質問・相談ができ、タイムリーな理解と実践に役立った。</p> <p>また、インターネットサイト上での掲示板を活用することで、質問と回答を受講者全体が閲覧できるシステムとし、一人の受講者からの質問トピックについて、他の受講者からのコメントも受け付けた。これにより、受講者間でのシェアリングや相互学習にも役立ったと考える。</p> <p>授業関連の連絡などはインターネットの教育サイト、もしくは作成したメールリストによる一斉配信システムを活用して、効率的に漏れがないシステムチックな方法をとった。</p> <p>学習の最後の課題として、これまで学んだことを各自が臨床上で実践した結果、臨床ケーススタディーとして講師へ提出してもらい、内容をレビューした後、最後のスクーリング時に受講者自身によるプレゼンテーション発表を行い、他の受講者とのシェアリングや意見交換を行った。トピックについては、受講者間でのディスカッションも行った。発表を通じて、自分がこれまで学んだ事をどのように実地で活かしていったかの自己点検に役立ったと考えられる。また、他の受講者が、学習したことをどのように捉えて実施していったかについてお互いから学ぶ場となり、大変有意義な意見交換の場を提供することができたと缶 g なる。</p> <p>6 ヶ月のプログラムを一旦終了した後にも、受講者からは引き続き学習を続けていきたいとの強い要望があり、また同じ内容を学んだ参加者同士での情報交換の場を継続して作ってほしいとの要望が多数寄せられたことから、ネット上のソーシャルメディア（フェイスブック）にてグループを作成し、過去の講義参加者をメンバー登録した。各自が臨床上実践しているケースのシェアリングや、講師並びに参加者（他の獣医師）への質問が適宜できるシステムを作った。引き続き継続的かつリアルタイムに情報シェアリングができるシステムを取り入れて活用していることで、講義で学習したことが、臨床の現場のアプリケーションにさらに発展して役に立っていると考える（現在に至る）。</p>
--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・体験型学習の導入：実践に役立てるために「ラボ実習」として調理実習を行った ・食事指導の結果をデータで示すための治験を実施（統一した方法で血液検査データを収集） ・主催者（当該学会）による満足度アンケートの実施 	<p>平成 27 年 11 月～平成 28 年 6 月実施</p>	<p>『統合医療栄養学セミナー（実践編）』では、『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』ならびに実践編の座学で学んだ知識を、患者に対する治療を行う上での実務上の知識・経験として身につけて活用できるように、ラボ実習として、栄養バランスのとれる動物の手作り食の調理自習を行った。受講者からは「実際に体験してみても食事指導を臨床上で導入する際のハードルが下がった」、「想像していたより、実際に作ってみる方がずっと簡単だったので、実習があつて良かった」と高い評価を得た。</p> <p>『統合医療栄養学セミナー（実践編）』において、これまで学習した内容を実践・検証する方法として、各自が受け持ち患者に対して実践した食事指導の効果を客観的なデータをもって検証する為に、栄養指導の前と後で血液検査データがどのように変化したかを示す、試験的な治験データを収集する実習を取り入れた。（現在に至る）。評価方法は当該学会として統一した項目とし、取得したデータは学会にて蓄積・集計した後、研究結果としてとりまとめて後日発表する予定である。</p> <p>『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』として初回に実施したグループにおいて、当該学会による満足度アンケートを実施した所、5段階評価で全ての回答者が4もしくは5との回答であり、3以下は皆無であったことから、非常に高い評価結果であった。また、「非常に有意義な内容」であり「目からうろこが落ちた」、「理解がしやすかった」、かつ「受講前と後では栄養に対する考えが360度変わった」、「臨床上の実践に役立っている」、「食事療法を実践して改善したケースに自分でも驚いている」など、非常に良好な回答を多数得た。また、基礎編の6ヶ月が終了した後も、これで終わりにするのではなく、続編を実施して欲しいとの強い要望があった。満足度が高かったこと、そして受講者の継続学習の要望により、その後引き続き『統合医療栄養学セミナー（実践編）』（平成 29 年 3 月～平成 29 年 9 月実施）と、2回目の『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』（平成 29 年 2 月～平成 29 年 7 月）の開催に至った。このことから、講義内容は参加者の臨床獣医師のニーズに合致し、かつ有意義で満足がいく内容であったと考える。</p>
<p>2 作成した教科書、教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的にも解りやすい講義用スライド教材・テキスト（印刷したものを配布） 	<p>平成 27 年 11 月～平成 29 年 9 月</p>	<p>比較統合医療学会主催『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』ならびに『統合医療栄養学セミナー（応用編）』の獣医師向けの6ヶ月の栄養学プログラムにて使用した教材を以下に挙げる。</p> <p>『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』 テキスト ①～⑬</p>

<p>・授業の理解を深めるための補助教材・補足資料（ネットにて配信）</p> <p>・ビデオ教材の作成（ネットにて配信）</p>		<p>第1章 なぜ食事か 第2章 動物にとって必要な栄養素とは 第3章 栄養の生理学 第4章 ペットフードのラベルを読む 第5章 食事（フード）の種類 第6章 実践 手作り食移行のポイント 第7章 食のクオリティー 第8章 犬猫の体に有用・有害な食材 第9章 病気毎の食事 第10章 手作り食の応用（その1～2） 第11章 ケーススタディー発表 上記テキストは印刷して授業毎に配布している。</p> <p>『統合医療栄養学セミナー（実践編）』テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レシピの作り方（応用編） 2. 塩分について 3. 脂質の質とバランス 4. カルシウムと食材の活用方法 5. 食物繊維 6. 調理実習（ラボ） 7. ライフステージ別の食事 8. 体重管理のための食事 9. 腸内環境と食事 10. ビタミンとサプリメント 11. 食材などの選び方と入手先 12. 漢方を基礎にした食材選び 13. （補足）脂質 14. （補足）魚の取り入れ方 15. （補足）酵素発酵食品の作り方 16. （補足）その他 <p>上記テキストは印刷したものを配布している。</p> <p>また授業中に、講義に関連するトピックについてより深く理解してもらうために補足資料を用いて説明を行った。当初この資料はプリント配布せず、スライドに投影して補足の説明のために使用したものであったが、「役に立つ教材なので、授業中に見るだけでなく、手元にも残しておきたい」と受講者から希望があったため、後日ネットで教材を配信して、受講者が自宅でもくりかえし学習できるようにした。</p> <p>講義に関連するトピックについてより深く体感してもらうために補足教材としてビデオを作成し使用した。米国にて、すでに食事指導の経験が豊富な獣医師による教育的ビデオを活用すべく、本人の了解を得た後にトーク内容を講師自らが日本語に翻訳したものを字幕として挿入してビデオ教材を作成した。これを授業ならびに自習教材として使用したが、とても評価が高かった。</p> <p>なお、初回プログラム時に実施した（平成 27 年 11 月～平成 28 年 6 月実施）満足度アンケートによると、5 段階評価で全ての回答者が 4 もしくは 5 の回答であり、非常に高い満足度であったとともに、「非常に有意義な内容」で「理解がしやすかった」とのフィードバックを受けており、</p>
--	--	--

<p>・教材の評価</p>		<p>授業内容の理解に教材が役に立ったと考えられる。</p> <p>教材・配布資料自体についても、「とても解りやすい」、また「手元に詳しいテキスト教材が残ったので良かった」と良いフィードバックを受けた。また、欠席者からも「教材だけを見直しても内容が理解しやすい」とのフィードバックを受けた。</p> <p>また、授業中の配布テキストにはなかった補足資料（スライド表示のみで使用）についても、「是非、手元に欲しい」との意見が多数あり、授業後にネット上で受講者に配信した経緯からも、作成した教材は受講者にとって有意義な内容であり、臨床の現場でも役に立っていると考えられる。</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <p>・比較統合医療学会による授業評価・満足度アンケートによる評価結果</p>	<p>平成 27 年 11 月～平成 28 年 6 月</p>	<p>比較統合医療学会主催にて『統合医療栄養学セミナー』として獣医師向けに 6 ヶ月の栄養学プログラムを過去に 3 クール実施したが、『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』の初回（平成 27 年 11 月～平成 28 年 6 月実施）を受講したグループにおいて、当該学会による満足度アンケートを実施したところ、5 段階評価で全ての回答者から 4 もしくは 5 の回答（3 以下の回答は無し）を得たため、非常に高い満足度と評価結果であった。</p> <p>また、内容についてのフィードバックとして「非常に有意義な内容」であり「理解がしやすかった」、かつ「受講前と後では栄養に対する考えが 180 度変わった」、「臨床上の実践に役立っている」、「食事療法を実践して改善したケースに自分でも驚いている」との回答を多数得た。</p> <p>また、続編を実施して欲しいとの強い要望も多数あった。</p> <p>満足度と評価が高かったこと、そして受講者の続編への要望が寄せられた結果、初回の教育プログラムの終了後にも、引き続き続編として『統合医療栄養学セミナー（実践編）』（平成 29 年 3 月～平成 29 年 9 月実施）と、さらに『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』の 2 度目（平成 29 年 2 月～平成 29 年 7 月）の開催に至った経緯がある。</p>
<p>4 その他</p> <p><日本における教育・講演活動></p> <p>・動物病院にて一般（飼い主）向け講座「犬の手作り食教室（入門）」を開催</p>	<p>平成 24 年 7 月（西荻動物病院）</p>	<p>西荻窪動物病および上石神井動物病院主催にて、飼い主向けに講座を開催した。「犬の手作り食教室（入門）」のテーマで、犬に必要な栄養バランスがとれる手作り食の方法、フードの選び方について講義を行った。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 動物病院にて一般（飼い主）向け講座「犬の手作り食教室（入門）」の講義 	<p>平成 25 年 1 月 （上石神井動物病院）</p>	<p>西荻窪動物病院および上石神井動物病院主催にて、飼い主向けに講座を開催した。「犬の手作り食教室（入門）」のテーマで、犬に必要な栄養バランスがとれる手作り食の方法、フードの選び方について講義を行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 動物病院にて獣医師向け講座「生食セミナー：動物のための生食・ローフードを考える」の講義 	<p>平成 26 年 12 月 （アニマルウェルネスセンター）</p>	<p>動物病院アニマルウェルネスセンターにて、臨床獣医師向けに講座を開催した。「生食セミナー：動物のための生食・ローフードを考える」テーマで、種に適した食事と栄養バランス、ならびに近年米国の獣医臨床現場で注目されているローフードについて講義を行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 比較統合医療学会主催の『ホリスティック獣医学講座 キックオフセミナー特別講演』として「ローフード（生食）のすすめ～自然な食事による犬猫の健康法」の講演 	<p>平成 27 年 3 月 （日本獣医生命科学大学）</p>	<p>比較統合医療学会（旧：日本伝統獣医学会）にて主催する予定であった『ホリスティック獣医学講座のキックオフセミナー』として、獣医師・獣医看護師・一般向けに、特別講演「ローフード（生食）のすすめ～自然な食事による犬猫の健康法」のテーマにて講義を行った。近年米国の獣医臨床現場で注目されているローフードのトレンドについて、ならびに自然な食事により健康を増進する方法などについて講演を行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 比較統合医療学会後援の『獣医国際統合医療セミナー』にて、「ローフード（生食）のすすめ～自然な食事による犬猫の健康法」の講演 	<p>平成 27 年 7 月 （株式会社堀場製作所セミナールーム）</p>	<p>「自然の力（自然治癒力）を活かす統合医療」のテーマで、アメリカから統合医療の経験が豊富な獣医師 1 名、ならびに日本において統合医療・栄養指導で活躍している獣医師や医師など 3 名（自身を含む）を招いて、比較統合医療学会の後援にて『獣医国際統合医療セミナー』が開催された。近年飼い主さん達にも関心が集まっているローフードについて、アメリカで学んだ専門家として紹介され、「ローフード（生食）のすすめ～自然な食事による犬猫の健康法」のテーマにて講演を行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 動物病院にて獣医師・獣医看護師向け講座「ホリスティック栄養学～動物の手作り食&ローフードを考える」の講義 	<p>平成 27 年 7 月 （成城こばやし動物病院）</p>	<p>統合医療・ホリスティック医療を取り入れている動物病院（成城こばやし病院）の依頼により、院内で獣医師・獣医看護師向けの食事指導の方法について「ホリスティック栄養学～動物の手作り食&ローフードを考える」の題名で講義を行った。近年ニーズが高まっている飼い主による手作り食であるが、正しい栄養バランスの食事を実践するための方法と注意点、またアメリカで注目されているローフードの取り入れ方と、ホリスティック医療での取りくみについて講義を行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 飼い主向け講座「ホリスティック栄養学～動物の手作り食&ローフードを考える」の講義 	<p>平成 27 年 8 月 （成城学園駅近くの個人宅会場）</p>	<p>成城こばやし動物病院の獣医師による依頼で、手作り食に興味がある飼い主たちを集めた「ホリスティック栄養学～動物の手作り食&ローフードを考える」の題名で講義を行った。栄養学や自然食について意識の高い飼い主が 20 名ほど集まった。正しい栄養バランスの食事を実践するための方法と注意点、またアメリカで注目されているローフードの取り入れ方について学ぶ場として講義を行った。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 比較統合学会主催 臨床獣医師向け『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』6ヶ月コース 	<p>平成 27 年 11 月 ～平成 28 年 6 月 (6ヶ月間) (アットビジネスセンター渋谷)</p>	<p>比較統合学会主催にて臨床獣医師向けに『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』を平成 27 年 11 月より 6 ヶ月の期間で企画・講義を行った。全 4 回のスクーリング講義に加え、自主学習期間として 4 回の課題提出、そしてケース発表やディスカッションをおり込んだ学習プログラムを企画し、全期間において教材作成・専任講師を勤めた。</p> <p>過去の学会発表において、栄養と食事についての特別講演を行った際に、参加者からの反響が非常に大きく、強い関心がよせられたため今回の講義の開催へとつながった。講義内容は参加者が臨床での治療を行う上で特に要望が強い分野・内容であったが、体系的にまとまって知識を得る機会がこれまでなかったという意見がよせられたことから、演者が米国で体験・習得した最先端の栄養・食事の情報を折り込んだ内容を、体系建ててとりまとめ、セミナーとして提供したことで、大変良い評価を受けた事から、参加者にとっては有意義な情報を受ける機会となり、その後の臨床実践にも役立っていると考えます。講義内容は以下の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一回スクーリング内容：動物にとって不可欠な栄養とは／がんの食事／肝疾患・腎疾患の食事 ・第二回スクーリング内容：栄養の生理学／フードの種類／ペットフードのラベルの読み方／フードの品質・価格／手作り食移行のポイント／材料調達のポイント／心臓・循環器疾患の食事／皮膚疾患の食事／消化器疾患の食事 ・第三回スクーリング内容：犬・猫の体に有用な食材・有害な食材／体重管理と食材、原材料・食材について知る／個別対応・病気毎の食事（免疫、アレルギー、骨格、神経・てんかん、関節炎、ホルモン系、糖尿病、肥満、感染症、メンタル・精神疾患、術後のリカバリー）／手作り食の実践レシピ ・第四回スクーリング内容：ケーススタディ発表／質疑応答／ディスカッション
<ul style="list-style-type: none"> 比較統合医療学会後援の飼い主向け講座「犬の手作りごはん教室（簡単！入門講座～手作りごはんて愛犬元気）」の講義 	<p>平成 28 年 2 月 (高円寺ヒトツナ)</p>	<p>株式会社九十九里研究所主催/比較統合医療学会、日本獣医臨床交流機構などの後援にて、株式会社手作り食・自然食に興味がある飼い主向けに「犬の手作りごはん教室（簡単！入門講座～手作りごはんて愛犬元気）」のテーマで講義を行った。手作り食・自然食に興味がある飼い主が 20 名ほど参加した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 飼い主向け講座「犬の手作りごはん教室（簡単！入門講座～手作りごはんて愛犬元気）」の講義 	<p>平成 28 年 4 月 (青山一丁目たまサロン)</p>	<p>西荻動物病院院長の紹介で、手作り食に興味がある飼い主を集めた「犬の手作りごはん教室（簡単！入門講座～手作りごはんて愛犬元気）」の講義を行った。栄養学や自然食について意識の高い飼い主が 20 名ほど参加した。正しい栄養バランスの食事を実践するための方法と注意点、またアメリカで注目されているローフードの取り入れ方について学ぶ場としてレクチャーを行った。加え</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼い主向け講座「犬の手作りごはん教室（簡単！入門講座～手作りごはんて愛犬元気）」の講義 ・ 飼い主向け講座「犬の手作りごはん教室（簡単！入門講座～手作りごはんて愛犬元気）」の講義 ・ 比較統合学会主催 臨床獣医師向け『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』6ヶ月コース 	<p>平成 28 年 4 月 （西荻窪 アトリ エハコ）</p> <p>平成 28 年 7 月 （永福町 Salon O）</p> <p>平成 29 年 2 月 ～平成 29 年 7 月 （6ヶ月間） （公益社団法人 虹の会小伝馬町）</p>	<p>て、会場において調理施設が利用可能であったため、参加者に手作り食を生で体感してもらうために、実際に犬のための食事を作る調理実習・デモンストレーションを行った。</p> <p>株式会社九十九里研究所主催/比較統合医療学会後援にて、手作り食に興味がある飼い主向けに「犬の手作りごはん教室（簡単！入門講座～手作りごはんて愛犬元気）」の講義を行った。栄養学や自然食について意識の高い飼い主が 15 名ほど参加した。正しい栄養バランスの食事を実践するための方法と注意点、またアメリカで注目されているローフードの取り入れ方について学ぶ場としてレクチャーを行った。加えて、会場において調理施設が利用可能であったため、参加者に手作り食を生で体感してもらうために、実際に犬のための食事を作る調理実習・デモンストレーションを行った。</p> <p>株式会社九十九里研究所主催/比較統合医療学会後援にて、手作り食に興味がある飼い主を集めた「犬の手作りごはん教室（簡単！入門講座～手作りごはんて愛犬元気）」の講義を行った。栄養学や自然食について意識の高い飼い主が 15 名ほど参加した。正しい栄養バランスの食事を実践するための方法と注意点、またアメリカで注目されているローフードの取り入れ方について学ぶ場としてレクチャーを行った。加えて、会場において調理施設が利用可能であったため、参加者に手作り食を生で体感してもらうために、実際に犬のための食事を作る調理実習・デモンストレーションを行った。</p> <p>比較統合学会主催にて、前回好評だった臨床獣医師向けの『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』の第2弾を、平成 29 年 2 月より 6 ヶ月の期間で企画・講義を行った。全 4 回のスクーリング講義に加え、自主学習期間として 3 回の課題提出、そしてケース発表やディスカッションをおり込んだ学習プログラムを企画し、全期間において教材作成・専任講師を勤めた。</p> <p>過去の学会発表において、栄養と食事についての特別講演を行った際に、参加者からの反響が非常に大きく、強い関心がよせられたため初回の講義の開催へとつながったが、それに参加できなかった、間に合わなかったという獣医師からの要望にて再度開催することとなった。講義内容は参加者が臨床上の治療を行う上で特に要望が強い分野・内容であったが、体系的にまとまって知識を得る機会がこれまでなかったという意見がよせられたことから、演者が米国で体験・習得した最先端の栄養・食事の情報を折り込んだ内容を、体系建ててとりまとめ、セミナーとして提供したことで、参加者にとっては有意義な情報を受ける機会となり、その後の臨床実践にも役立っていると考え。講義内容は以下の通り：</p>
--	---	---

<p>・比較統合学会主催 臨床獣医師向け『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』6ヶ月コース</p>	<p>平成 29 年 3 月 ～平成 29 年 9 月 (6ヶ月間) (公益社団法人 虹の会小伝馬町、 スタジオフィオー レ目黒スタジオ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一回スクーリング内容：動物にとって不可欠な栄養とは／がんの食事／肝疾患・腎疾患の食事 ・第二回スクーリング内容：栄養の生理学、フードの種類／ペットフードのラベルの読み方／フードの品質・価格、手作り食移行のポイント／材料調達のポイント／心臓・循環器疾患の食事／皮膚疾患の食事／消化器疾患の食事 ・第三回スクーリング内容：犬・猫の体に有用な食材・有害な食材／体重管理と食材／原材料・食材について知る／個別対応・病気毎の食事（免疫、アレルギー、骨格、神経・てんかん、関節炎、ホルモン系、糖尿病、肥満、感染症、メンタル・精神疾患、術後のリハビリ）／手作り食の実践レシピ <ul style="list-style-type: none"> ・第四回スクーリング内容：ケーススタディ発表／質疑応答／ディスカッション <p>比較統合学会主催にて、平成 27 年 11 月より開催して好評だった臨床獣医師向けの『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』を受講した獣医師から、「これで学習を終わるのではなく、引き続き学んでいきたい」との強い要望により、前回「基礎編」の続編として、『統合医療栄養学セミナー（実践編）』を企画し、平成 29 年 3 月より 6 ヶ月の期間で講義・演習を行った。基礎編にて学習したことの理解をさらに深め、実践につなげる助けとなるように発展した内容とした。</p> <p>全 3 回のスクーリング講義に加え、1 回の演習教室（ラボ）、そして 1 回の自習課題提出、さらに座学で学習した内容に基づいて、各自の臨床現場で栄養指導として実施してもらい、データを収集する治験計画をおり込んだ学習プログラムを企画し、全期間において教材作成・専任講師を勤めた。講義内容は以下の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一回スクーリング内容（座学）：フード選びのガイドライン／手作りご飯レシピの作り方（応用）／脂質の質とバランス／塩分について／カルシウムについて／症例検証のテーマ選定と実習グループの班分け ・第二回スクーリング内容（実習）：調理器具と調理方法について／調理実習 ・第三回スクーリング内容（座学）：ライフステージ別の食事／体重管理のための食事／腸内環境と食事の関係／臨床実践（導入、データ集めの概要） ・第四回スクーリング内容（座学）：ビタミンとサプリメント／食材・サプリの選び方と入手先／漢方を基礎とした食材選び／ケース発表・シェアリングとディスカッション
--	---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼い主向け講座「犬の手作りごはん教室（簡単！入門講座 2～手作りごはん健康を守る）」の講義 ・ 比較統合医療学会主催の一般向け栄養学講座「犬の手作り食～ホリスティック栄養学」（シリーズ全 6 回） ＜シリーズ第 1 回目＞講義『動物にとって必要な栄養とは』 	<p>平成 29 年 4 月 (西荻窪 アトリ エハコ)</p> <p>平成 29 年 10 月 (公益社団法人 虹の会小伝馬町)</p>	<p>株式会社九十九里研究所主催/比較統合医療学会後援にて、手作り食・疾病予防に興味がある飼い主向けに「犬の手作りごはん教室（簡単！入門講座～手作りごはん愛犬元気）」の講義を行った。栄養学や自然食について意識の高い飼い主が 15 名ほど参加した。種に適した食事について、また正しい栄養バランスの食事を実践するための方法と注意点について学ぶ場としてレクチャーを行った。</p> <p>比較統合医療学会（旧：日本伝統獣医学会）主催にて一般向けの講座として「犬の手作り食～ホリスティック栄養学」（シリーズ全 6 回）を開催。 ＜シリーズ第 1 回目＞の講義として『動物にとって必要な栄養とは』のテーマにて講演を行った。獣医師、獣医看護師、動物関連の専門職、飼い主など様々な参加者が 40 名ほど参加した。 当該講座は、当該学会主催の獣医師向け講座『統合医療栄養学セミナー（基礎編・実践編）』の展開講座として、飼い主など幅広く一般の方を対象にして教育を行う予定。平成 29 年 10 月より毎月同じ内容で 2 回講義を予定しており、全 6 回シリーズの企画であるため、平成 30 年 3 月までに全講義が終了する予定である。</p> <p>今後の講義予定は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シリーズ 2 回目 栄養の基礎 2（健康的で安全な食事のために） ・ シリーズ 3 回目 ペットフードの選び方（ラベルの読み方） ・ シリーズ 4 回目 手作り食を始めてみよう（導入編） ・ シリーズ 5 回目 手作り食を始めてみよう（応用編） ・ シリーズ 6 回目 手作り食 実習 1 回目 お肉ベースの食事
<p>＜米国の大学における教育活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米国ニューヨーク州立大学デルハイ校（SUNY Delhi）ヴェテリナリーサイエンステクノロジー学部における教育実績 	<p>平成 24 年 9 月～ 平成 25 年 5 月</p> <p>平成 24 年 2 月～ 平成 24 年 5 月</p>	<p>米国ニューヨーク州立大学デルハイ校にて、大学公認のチューターとして、後輩の学生に補助教育を行った。担当した科目は「細菌学」、「動物解剖学・生理学」など。</p> <p>米国ニューヨーク州立大学デルハイ校ヴェテリナリーサイエンステクノロジー学部にて、学部長の教務補佐として、教育用補助教材の選定・管理・配布のサポートを行った。（この実績について、学部長から SPEC PROB-ANIMAL CARE ASSISTANTII として特別に単位を授与された。）</p>

実務上の実績に関する事項		
事項	年 月 日	概 要
<p>1 資格、免許</p> <p><動物看護師・栄養学関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛玩動物飼養管理士（二級） ・生活習慣病予防士 ・愛玩動物飼養管理士（一級） ・ペット栄養管理士 ・米国ヴェテリナリーテクニシャン(獣医看護師)免許 ・認定動物看護師 <p><ビジネス関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シックスシグマ ブラックベルト認定 ・デールカーネギートレーニングセンター認定 ・ミシガンビジネススクール認定（於：シンガポール） ・ISO13485: 2003 内部監査員 ・公認パフォーマンスカウンセラー 		
<p>2 職務の経歴及び職務上の業績</p> <p><動物看護師・栄養学関連></p> <p>①プラネットペットフード株式会社にて栄養指導ならびにペットフードの栄養開発</p> <p>②西荻動物病院にて栄養指導ならびに栄養教育を実施</p> <p>③米国シカゴ市の動物病院ロイヤル・トリートメント・ベテリナリー・センターにて、小動物の栄養教育プログラムの作成と運営の補助、ならびに企業提携による動物用サプリメントの開発に携わる</p>	<p>平成 22 年 9 月 ～平成 23 年 6 月</p> <p>平成 22 年 6 月 ～平成 22 年 8 月</p> <p>平成 26 年 2 月 ～平成 26 年 9 月</p>	<p>プラネットペットフード株式会社において栄養管理顧問として、以下を担当した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のペットフードマーケットの調査 ・ペットフードの栄養分析とフード開発 ・ペットフードラベルの作成と管理 ・顧客に対する栄養指導・質問回答 社内スタッフへの栄養教育・指導をした。 <p>・入院患者への栄養指導を行った（食事評価、症例レシピ作成、栄養指導）。</p> <p>・院長の依頼により、通院している飼い主向けに栄養セミナー・勉強会を実施した。</p> <p>・病院内の症例検討会にて、栄養指導の内容と症例を報告した。</p> <p>動物における「種に合った食事」の必要性和犬猫の健康維持に必要な栄養学を広めるために、院長 Dr.ロイヤル獣医師による動物栄養学教育プログラムを推進すべく教材の作成・セミナー運営に携わった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養セミナーの受講者が理解を得やすいように、アウトラインを作成しセミナー時に配布した。

<p>④ペットサロン PERON にて栄養指導・食事の啓蒙にあたる</p> <p>⑤株式会社 グロービアにて、「シニア犬猫のための栄養学入門」記事を連載</p> <p><ビジネス関連></p> <p>会計税務、財務管理・ファイナンス、経営企画・経営コンサルティング、業務改革の分野にて合計 11 年間の国際的な実務経験を積み、その後は医療ヘルスケアの分野にて 7 年間の国際的な実務経験を持つ。うち、管理職としての経験は 12 年間、海外勤務経験は 2.5 年。</p> <p>外資系企業を中心に自己啓発、自己教育、職務経験を積み、ステップアップとしての転職を通じて、積極的に自らキャリア形成を展開して来た結果、米国系ヘルスケア会社において業績が評価され、30 代にて女性の管理職（部長）に抜擢された経緯がある。</p> <p>詳しい業績は以下のとおり：</p> <p>①五味田会計事務所 会計税務スタッフ</p> <p>②ジャパンロシア水産株式会社 経理部（平成 7 年 8 月まで）</p>	<p>平成 25 年 10 月～平成 26 年 4 月</p> <p>平成 28 年 5 月～現在に至る</p> <p>平成 4 年 7 月～平成 5 年 7 月</p> <p>平成 5 年 9 月～平成 7 年 8 月</p>	<p>・栄養セミナー開催時に配布する資料・教材（ハンドアウト）一式を作成した。</p> <p>・平成 26 年 8 月に「栄養セミナー・キックオフ講義」の開催にあたり、セミナー当日の教務補助を行った。</p> <p>Now Foods 社との企業提携による犬猫用サプリメントの企画開発の補助として機能性栄養食品を調査し、候補となる栄養素リストを作成した。</p> <p>Now Foods 本社へ院長 Dr. ロイヤル獣医師とともに訪問し、打合せを行う。また事前の会議資料の作成を担当した。</p> <p>栄養指導・食事の啓蒙活動として、顧客向けに個別栄養指導を行った。またペットの栄養学について教育するための活動として、栄養についての記事を作成し、広報用の配布物に掲載した。</p> <p>シニアの動物向けに望ましい栄養と食事についての知識を啓蒙するために「シニア犬猫のための栄養学入門」シリーズとして記事を投稿。年 2 回発行の獣医向け情報紙「VETSReport」に掲載中。平行して、獣医師向けの情報発信ウェブサイトと同様のテーマで栄養についての記事を 3 ヶ月に 1 回の間隔で連載している。</p> <p>五味田会計事務所の税務スタッフとして、クライアントを 10 社ほど担当し、会計・税務業務の代行、税務申告・税務コンサルティング等を行った。</p> <p>日本の民間会社とロシアの漁業組合（ソブリブ・フロート）の合弁会社であるジャパンロシア水産にて、経理スタッフとして、通常の経理業務にくわえて貿易実務を行う。ロシア・ウラジオス</p>
---	--	---

<p>③ブエナ・ビスタ・ジャパン株式会社 ファイナンス部</p>	<p>平成 7 年 9 月 ～平成 10 年 4 月</p>	<p>トクならびにカムチャッカの支社へ出張し、現地スタッフへ会計指導・トレーニング・勉強会を行った。</p> <p>米国ウォルトディズニー社の日本子会社であるブエナ・ビスタ・ジャパン株式会社にて、日本における映画配給事業の会計・経理業務、財務予算管理業務、キャッシュフロー管理、配給会社との契約業務、税務申告等を行う。新規会計システムの導入から、会計業務フローの確立にも関わり、米国本国への会計報告・説明責任までを一貫して担当する。その功績がみとめられ、平成 8 年 10 月にシニアファイナンシャルアカウンタントに昇格、さらに平成 9 年 10 月には財務経理部のアシスタントマネジャーに昇格。</p> <p>部下スタッフ向けに、社内で「経理の基礎知識」、また「会計報告のやり方」、「会計システムの使い方」のトレーニング、勉強会を数回開催した。</p>
<p>④ゼネラルエレクトリック・インターナショナル・インク</p> <p>・ GE クオーツ ファイナンスマネージャー</p>	<p>平成 10 年 9 月～ 平成 15 年 10 月</p> <p>平成 10 年 9 月 ～平成 11 年 12 月</p>	<p>米国 GE (GENERAL ELECTRIC)の子会社である日本法人にて、会計・財務・コンサルティング業務の実績を持った。</p> <p>・ GE の関連会社の一つである GE クオーツ社において、現地法人として事業立ち上げのため、ファイナンスマネージャーとして会計システムの導入から、本国への報告システムまで、ゼロから確立し軌道に乗せる。また、従来は曖昧だった価格設定の方法をルール化し営業活動に導入する他、財務キャッシュフロー改善のために銀行と連携したファクタリングを導入するなど、各種の業務システムを企画し確立した。</p> <p>・ 社内スタッフ全員に「利益率をあげるための会計的なアプローチの営業」を指導するため、社内にて勉強会を行った。</p>
<p>・ 国際コーポレート監査スタッフ</p>	<p>平成 12 年 1 月 ～平成 14 年 6 月</p>	<p>・ 米国のコングロマリットであるゼネラルエレクトリック社の全事業部、そして全世界の子会社から選抜された特殊スタッフとして集められた国際的な監査チーム (Corporate Audit Staff) に配属され、籍を本社 (コネチカット州) に移すとともに、日本、中国、米国、イギリス、フランス、オランダ、オーストラリア等に存在する子会社のプロジェクトに派遣され、社内会計監査、社内コンプライアンス、財務コンサルテーション、ならびにシックスシグマ等の手法を駆使した業務改善等の監査・指導などを行う。派遣された業界は、金融・リース・保険、メディカル機器、プラスチックなどの製造業と多岐にわたった。この間、業績が認められ、ストックオプションを 2 度受賞。</p>

<ul style="list-style-type: none"> GE 東芝シリコン 財務部 アジアパシフィックコントローラー 	<p>平成 14 年 7 月 ～平成 15 年 10 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国際的なチームに加わり、上司や同僚がアメリカ人、ヨーロッパ人、インド人、シンガポール人、中国人と多用な考えと働き方を経験することで、キャリアアップやキャリアプランの国際的な考え方、働き方を身につけ、国際的な舞台でも物怖じせずに堂々と自己主張できるような技術を身につけた。 外国人の女性の管理職の方にメンターとなって頂き、女性の積極的なキャリア形成方法や、しなやかな働き方、自己アピールの方法、働き方などを肌で学んだ。 帰国後、GE の関連会社の一つである GE 東芝シリコン社に、アジアパシフィック地域を総括する財務コントローラーとして、社内イニシアチブの一つであった、会計リコンシリエーションのプロジェクトの推進を行い、当初の不良率が 46% であったのを、6 ヶ月後には 15% に改善させる業績をあげる。その他にも各種業務改善と新会計システム SAP の導入を成功させる。 社内にて、ファイナンス部社員向けに、会計・経理関連のトレーニング、会計ソフトの使い方、財務報告書の書き方などのトレーニング・指導を行う。
<p>⑤日本ガイダント株式会社企業統合により平成 21 年 1 月にボストンサイエンティフィックジャパン株式会社へ移籍)</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬事本部 安全管理部マネージャー (平成 15 年 10 月～平成 21 年 1 月) ボストンサイエンティフィックジャパン株式会社 品質システム部 部長 	<p>平成 15 年 10 月 ～平成 21 年 4 月</p> <p>平成 15 年 10 月 ～平成 21 年 1 月</p> <p>平成 21 年 1 月 ～平成 21 年 4 月</p>	<p>米国ガイダント社の子会社であった日本ガイダント社は、虚血性心疾患の主な原因である血管狭窄を治療するための血管留置型ステントやガイドワイヤー、また、心再同期治療機能付き埋め込み型除細動器 (CRT-D) や埋め込み型ペースメーカーを開発・製造・販売する事業を行うが、これら医療機器製品の日本における安全性に関する責任者として、厚生労働省との折衝や不具合報告、ならびに自主回収リコールの決定や実施など、社内の品質管理システムの構築を行ってきた。</p> <p>同時に当社における「薬事法上の安全管理責任者」に任命され (平成17年4月～)、当初は部下 14 名を管理・育成した。その後、当社はボストンサイエンティフィック社に買収され、社内統合によって職務が拡大した結果、最大 40 名の組織を管理した経験を持つ。その後、これまでの業績が認められ、品質システム部部長に抜擢・昇進、30 代で女性の管理職部長となる。品質システム部では、社内の品質システムのデザインと構築・導入、ならびに ISO 準拠のための全社員社員トレーニングを進めるとともに、品質システム部スタッフの教育・啓蒙にあたる。在籍中はストックアワード賞を計 4 回受賞。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社内にて、安全管理部のスタッフ向けに、ビジネス文書作成 (厚生労働省むけの報告書の書き方) の教育・トレーニング、ならびに勉強会を行った。

<p>⑥プラネット・ペットフード 日本ゼネラルマネジャー</p>	<p>平成 22 年 9 月～ 平成 23 年 6 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社内にて、安全管理部のスタッフ向けに、ビジネス文書作成（医師への報告書、謝罪の手紙など）の教育・トレーニング、ならびに勉強会を行った。 ・ 社内にて、品質管理部のスタッフ向けに、ビジネス文書作成（わかりやすいトレーニング資料、教育文書の書き方）の教育と勉強会を行った。 ・ 社内にて、品質管理部のスタッフ向けに、ビジネス文書（わかりやすいプレゼンテーション文書と発表の仕方）の教育と勉強会を行った。 <p>外国人の資本家により、日本にてペットフードの新ブランドの立ち上げをまかされ、日本の総責任者に任命された。米国の製造工場を視察し業務提携、その後日本での製品開発、価格設定、販路開発、ブランド確立、ホームページの立ち上げまで、事業経営に必要な業務を一括して担当した。</p> <p>その後、業務システムが確立し軌道にのったタイミングで、他のスタッフに業務をバトンタッチし、栄養管理顧問として自分が特に興味のある栄養コンサルティングに特化した。</p> <p>その後、小動物のケア・栄養についてさらに勉強したいと考え、米国の大学へ入学することが決まり、休職するに至った。このことが、現在、栄養学の教育に携わるまでに至るキャリアチェンジのきっかけ、ならびに転換期となった。</p> <p>以上、これまで、自らが望む職務経験が得られる職業を選択し、そしてステップアップの転職を行い、また必要な教育や勉強を自ら積極的に選択的に取り入れることで、人生半ばでのキャリアチェンジも可能となり、自分が望むライフワークを中心とした職業に付く事ができることを体験してきた。自ら望むキャリアを、主体的に描き、実現していく事の重要性和意味を感じている。</p>
<p>3 当該分野の実務業績に対する 産業界等の評価</p> <p>①比較統合医療学会（旧：日本伝統獣医学会）感謝状</p> <p>②比較統合医療学会（旧：日本伝統獣医学会）感謝状</p> <p>③米国ボストンサイエンティフィック社（旧：米国ガイダント社）ストックアワード賞 受賞</p>	<p>平成 26 年 12 月</p> <p>平成 27 年 6 月</p> <p>平成 18 年 4 月 平成 20 年 2 月 平成 20 年 7 月 平成 21 年 2 月</p>	<p>第 54 回学会大会における講師と学術研鑽活動への寄与について</p> <p>第 55 回学会大会における講師と学術研鑽活動への寄与について</p> <p>社員として優秀な業績が認められ、ストックアワード賞を 4 回にわたって受賞した。会社の株式を無料で授与された。</p>

<p>4 その他</p> <p>①ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国ニューヨーク州 ANGEL'S GATE (障害を持つ動物たちを受け入れるサンクチュアリー施設) においてボランティア活動 ・米国ニューヨーク州動物保護団体に HEART of the CATSKILL'S HUMANE SOCIETY おいてボランティア活動 ・米国ニューヨーク州動物リハビリセンター WATER4DOGS において理学ウォーターセラピースタッフボランティア活動 ・千葉県特別養護老人施設アニマルセラピー活動・訪問ボランティア活動 	<p>平成 23 年 9 月 ～平成 24 年 3 月</p> <p>平成 24 年 9 月 ～平成 25 年 5 月</p> <p>平成 25 年 5 月</p> <p>平成 26 年 2 月</p>	
--	---	--

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
1 著書、論文、その他の成果発表		
(著書)		
1 比較統合医療学会『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』テキスト①～⑬ （再掲）	平成 27 年 11 月 ～平成 28 年 6 月	比較統合医療学会『統合医療栄養学セミナー（基礎編）』テキスト①～⑬ 著書の内容：獣医師向けに小動物の栄養学の基礎、臨床における食事指導に必要な基礎知識、ペットフードのトレンドと選択方法、犬猫に有用な食事の基礎知識、飼い主が手作り食を行う場合の栄養指導のポイント、実践的な食事の用意の仕方、疾病毎に勧められる栄養素を取り入れた食事指導などについての内容をまとめて教材とした。 （全 456 頁） 第 1 章 なぜ食事か 32 頁 第 2 章 動物にとって必要な栄養素とは 32 頁 第 3 章 栄養の生理学（上下） 32 頁 第 4 章 ペットフードのラベルを読む 3 頁 第 5 章 食事（フード）の種類 20 頁 第 6 章 実践 手作り食移行のポイント 28 頁 第 7 章 食のクオリティ 28 頁 第 8 章 犬猫の体に有用・有害な食材 32 頁 第 9 章 病気ごとの食事（上下） 88 頁 第 10 章 手作り食の応用 56 頁 第 11 章 ケーススタディー 32 頁
2 比較統合医療学会『統合医療栄養学セミナー（実践編）』テキスト①～⑩ （再掲）	平成 29 年 3 月～ 平成 29 年 9 月	『統合医療栄養学セミナー（実践編）』テキスト①～⑩ 著書の内容：上記の「基礎編」の内容に加えて、更に理解が求められるトピックについて実践的な要点をまとめた教材とした。飼い主が手作り食を取り入れる場合に適切な栄養バランスの食事を用意する為のレシピの作り方とポイント、塩分の調整方法、脂質の選び方と必須脂肪酸のバランス、カルシウムとリンの比率調整のための実践的な方法、ライフステージ毎に注意が必要な点、食物繊維の種類と食材、腸内環境と健康増進について、またビタミン・サプリの取り入れ方や漢方を取り入れた食材の選び方など、食事指導を実践する上で応用が可能な内容とした。さらに、調理実習をおこなうための実習レシピ群や、調理器具の選び方ならびに調理のポイントなどを教材とした。 （全 335 頁） 1. レシピの作り方（応用編） 32 頁 2. 塩分について、脂質の質とバランス 28 頁 3. カルシウムと食材の活用方法、食物繊維について 40 頁 4. 調理実習（ラボ教材） 13 頁 5. ライフステージ別の食事 36 頁 6. 体重管理のための食事 29 頁 7. 腸内環境と食事 33 頁 8. ビタミンとサプリメント 44 頁

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
(学術論文) なし (その他) 「学会発表」		9. 食材などの選び方と入手先、漢方を基礎にした食材選び 28頁 10. (補足) 脂質について、魚の取り入れ方、酵素発酵食品の作り方、その他 52頁
1 米国の代替医療の現状についてのレポート (学会発表)	平成 26 年 12 月 (池袋サンシャインシティークンフェレンスルーム)	比較統合医療学会 (旧: 日本伝統獣医学会) 米国の獣医学における代替医療・統合医療の現状について、米国ホリスティック獣医学会 (American Holistic Veterinary Medical Association) における活動経験および米国シカゴ市ロイヤル・トリートメント・ベテリナリー・センターにおける実務経験などをもとに、米国最先端の代替医療のトレンドと現状を日本の獣医師・獣医看護師向けに発表した。
2 ホリスティック栄養学～なぜ食事か? Holistic Nutrition～Why we care about food? (特別講演)	平成 27 年 6 月 (ロイトン札幌)	比較統合医療学会 (旧: 日本伝統獣医学会) 米国の獣医学における代替医療・統合医療の現場で近年注目されている栄養学および食事療法の現状、ならびに種に適した食事の必要性と適切な栄養について講演した。自身がペットフードメーカーで栄養顧問ならびに商品開発に携わった経験から、また米国の動物病院における栄養学の教育指導経験、米国ホリスティック獣医学会での活動経験などから、ペットフードのトレンドと小動物の栄養学、そして犬猫の遺伝学・解剖生理学の観点から本来の種にとって必要な食事と栄養の質について講演した。 この講演が参加者から高い評価を得たことがきっかけとなり、平成 27 年 11 月から当該学会主催の獣医向けの 6 ヶ月にわたる教育プログラム『統合医療栄養学セミナー』の開催につながった。
「学会：特別講演」 1 比較統合医療学会の特別講演『ホリスティック獣医学講座 キックオフ 特別講演』として「ローフード (生食) のすすめ～自然な食事による犬猫の健康法」の講演	平成 27 年 3 月 (日本獣医生命科学大学)	比較統合医療学会 (旧: 日本伝統獣医学会) にて主催予定であった『ホリスティック獣医学講座』のキックオフ講演として、獣医師・獣医看護師・一般向けに、特別講演「ローフード (生食) のすすめ～自然な食事による犬猫の健康法」のテーマにて講演を行った。近年米国の獣医臨床現場で注目されているローフードのトレンドについて、ならびに自然な食事により健康を増進する方法などについて講演した。

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
2 特許等 なし		
3 その他 なし		